私たちが国東を元気にします

Vol.33

企業編

第一次産業編

商工会編

国見町伊美1968番地

院施設40床で始ま年に設立しましたが、前島 40床で始まりま 始まりました。平成13年した。当時は、外来診察肌身の手島医院を引き継、現理事長の田北親譜や、現理事長の田北親譜や

事長の田北親譜さんの母故 事島医院を引き継ぎ昭和47 当時は、外来診察を主に入 れが体調を崩したので、 親譜さんは医師として勤 務していた熊本県の病院 を辞め、後を継ぎました。 を辞め、後を継ぎました。 を辞め、後を継ぎました。 を辞め、後を継ぎました。 を辞め、後を継ぎました。 病院を建設しました。 大規模な6階建て82床 入れることでした。そこ ている多くの患者を受け 市内の個人病院でも 医療措置が早急 0)



新一郎さん



長年にわたり自家用栽培の

作物を使った加工に取り組む

幸松新一郎さんは、父故武男さんが始めた漁業を、15歳の時から一緒に行うようになりました。新一郎さんが漁を始めた昭和30年代は、努力すればするほど魚がたくさん獲れていました。そのに漁獲量が減ってきたので、中りを始め、県内スーパーの産地直売コーナーや市内の道の駅や里の駅で販売して多くの注文がありました。なりました。すりを始め、県内スーパーの産地直売コーナーや市内の道の駅や里の駅で販売してありました。大変好評にありました。大変好評にありました。

作りに気を配りました。

タリ

ハれました。

もらうため普及活動にも力を入



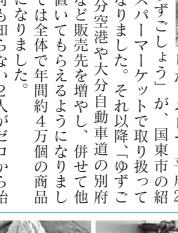
が、賞味期限が短く、 作り置きができないた けなければなりません。 そこで、平成19年に大 たワンコインふるさと たワンコインふるさと を開発

事長の人脈を通じて、型病床として積極的に

極的に

療療養型病床や介護療必要でない入院患者を

でゆず



りました。

科や皮膚科、神経内科、リハビリテー 整形外科、リハビリテー を要望する声が高まった。 でで、一大変を発症している方の変族より、医 でで、一大変を必要と を要望する声が高まった。 でで、一大変を必要と をでは合計で12施設。 では合名まで増えました。

「タコ飯の素」を開発していきました。その後も、 一を販売するようになりました。それ以降、「のずごしょう」は、大分空港や大分自動車道の別府 大きくすることができ、みなさんに感謝していきました。そして、今では全体で年間約4万個の商品を販売するようになりました。それ以降、「ゆずごは、妻の味付けと自分達で栽培した野菜を商品のこだわりを受け継いでくれる後継者探しにも力を入れていきたいと考えています」と話してくれました。

考えています。 病院であり続けるために、

ることが予想されます

努力していきたいと地域に必要とされる

さらに高齢化が進みニー

ズの変化が起こ

安心」の理念を忘れず

事業を展開してきました。今れず、地域や患者の要望に応立当初からの「丁寧、正確、

国見病院は、

設立当初

えるため、

様々な事









す」と話していました助けが、自分の料理土壌があると信じてい材がたくさんあり、イ もらいたいです」 タグラムを開設して イタリア料理に使えるオリ ってほ していました。自分の料理でできればと考えて 0 世希子さんは、「うちの店 れるお客さんが、徐々に増 れるお客さんが、徐々に増 えてきて大変うれしいです。 れるお客さんが、徐々に増 えてきて大変うれしいです。 がとフェイスブックやインス いとフェイスブックやインス で、イタリア料理が親しまれる で、イタリア料理が親しまれる で、オタリア料理が親しまれる

人に知

安岐町塩屋293-5

平成14年6月から イタリア料理店を営む

